

はじめに

金田 智子

現在、日本語教育基盤情報センター学習項目グループでは、調査研究事業「日本語教育における学習項目一覧と段階的目標基準の開発」（平成18年度～22年度）に取り組んでいる。今後、日本で生活する外国人はますます増えていくことが予想されることから、外国人が**社会の一員**として地域社会に根付き、職場や学校等で活躍できるよう、身に付けるべき日本語能力とは何か、生活者としての外国人にとって必要な日本語とは何かを検討することは、国内における外国人の受け入れ拡大に関わる重要課題である。本調査研究は、国内外の先行事例を参考にしつつ、具体的な調査データをもとに学習項目一覧と段階的目標基準を開発することにより、日本語学習内容の選定・カリキュラム作成、教材や試験の作成における基盤的な資料を提供しようとするプロジェクトである。

これまで、日本語教育の世界では、中国帰国者、難民、研修生、留学生、ビジネス関係者等に対しての日本語教育の内容・方法が広く開発されてきた。同時に数多くの教材が開発され、日本語の能力を測るテストも複数存在している。日本語教育の環境はかなり整備されてきたと言えるが、就労を目的として来日した外国人に対する日本語学習支援、学習の到達目標の明確化、そして、日本社会全体の日本語学習者や在住外国人に対する理解促進などにおいては、十分とは言えない点がある。たとえば、日本国内で実施されている教育プログラム、教材、テストなどの全体を見渡してみると、量的にも質的にも充実しているにもかかわらず、相互の関連性は見えにくい。これは日本語の学習者全体にとって、あるいは外国人を受け入れる日本社会にとって、不利益な状態をもたらしているのではないだろうか。

今回、本プロジェクトを立ち上げるにあたり、すでに存在しているシラバスや教材をもう一度見直し、同時に学習者というものを今までの枠組みにはよらず、「生活者」という言葉によって捉え、彼らが日本社会の一員として生きていくうえで必要な日本語を検討することはできないか、ということを考えた。

この調査研究が始まってからこれまで、国内外の先行事例や先行研究の概観を行った。国内の日本語教育に関しては、中国帰国者、難民、研修生などに対する教育内容比較のための情報収集を行ってきた。また、10種類の初級教科書の分析を行っている。教科書分析を行う理由は、日本語教育の内容・方法の実際を表すものである教科書というものを分析することにより、言語能力、あるいはコミュニケーション能力が現実はどう捉えられているかを知ることである。

海外については、移民等外国人の受け入れの歴史がある国々、アメリカ、ドイツ、オラ

ンダ，韓国，カナダ，オーストラリアを対象に，情報収集を行ってきた。アメリカ，オランダ，ドイツ，韓国については，訪問調査も実施し，それぞれの国における移民等に対する自国語教育のシラバスについて，その理論的な背景や法律，作成過程，学習項目，カリキュラム，評価方法等を調べた。

今後は，これまでに集めた資料を元に，コミュニケーション場面のリストを作成し，それを参照しつつ，国内の在住外国人の日本語使用に関わる実態調査とニーズ調査を実施する予定である。

本報告書は，本調査研究事業の一環として行った成果普及セミナー（2007年8月20日実施）での発表4件をまとめたものである。今回のセミナーは，国内外の定着・定住目的の言語教育に関する専門家にお集まりいただき，学習項目グループが昨年度から収集した資料等を元に，日本国内の定着・定住プログラム，海外における移民等に対する教育プログラム等の内容に関する分析結果を紹介し，成果の普及を図るとともに，「生活者」にとって必要な日本語やコミュニケーション能力とは何かを検討することが目的である。あわせて，今後の調査研究及びデータ作成に関する意見交換・情報交換を行うことも目指した。

成果普及セミナーのプログラムは以下の通りである。

1. 日程：2007年8月20日（月）13時30分～17時15分
2. 場所：国立国語研究所 多目的室（2階）
3. プログラム

○挨拶，趣旨説明（含.プロジェクトの概要説明），参加者紹介

○発表・報告

I. 海外における移民等に対する自国語教育

- i. 概観（海外数か国について制度的な側面を概観）
- ii. 「アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容について」＜福永由佳＞
- iii. 「オランダにおける移民等に対する自国語教育の内容について」＜金田智子＞

II. 国内における日本語教育

- i. 「中国帰国者に対する日本語教育内容の変遷」＜黒瀬桂子＞
- ii. 「総合初級教科書から見える日本語」＜武田聡子＞

○今後に向けて：参加者からのコメント及びディスカッション

以下の方々にご参加いただいた。（五十音順，敬称略）

＜コメンテーター＞

足立祐子（新潟大学），井上洋（日本経済団体連合），岩見宮子（国際日本語普及協会），尾崎明人（名古屋外国語大学），小林悦夫（中国帰国者定着促進センター），西原鈴子（東

京女子大学), 春原憲一郎 (海外技術者研修協会), 古川嘉子 (国際交流基金), 松岡洋子 (岩手大学)

<参加者>

中野敦 (文化庁), 西村泰雄 (文化庁) *ほかに, 日本語教育機関などからも多数ご参加いただいたが, 個人名を全て挙げるのは差し控える。

セミナーでは, まず, 移民等の受け入れを行っている海外数か国に関して, 制度的な側面を概観し, 具体的な教育内容・評価方法の例としてアメリカとオランダについての調査結果を発表した。国内に関しては, 「生活」に重点を置いた日本語教育の代表例として中国帰国者に対する日本語教育を取り上げ, その教育内容の変遷を紹介した。そして, 初級レベルの総合教科書の分析結果について, その練習のタイプに注目した結果等を紹介した。その後, コメンテーターからのコメント, 全体での質疑応答・意見交換を行った。

本報告書が, 「生活者」にとって必要な日本語とは何かを議論する際の材料の一つとなれば幸いである。

